

会 議 録

会議の名称	平成25年度第5回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成25年10月5日(土) 午前9時30分～12時00分
開催場所	教育委員会 2階 会議室
出席者	高野昂子委員、西山ひろみ委員、児玉亮一委員 田尻 円委員、長ヶ原美博委員、武田秀規委員 岩村沢也委員、千葉純平委員、本間雄一委員 小森和雄委員 事務局(生涯学習課長、副課長)
欠席者	なし
公開・非公開	公開(傍聴人 0人)
会議次第	1. 協議事項 (1) 社会教育に関わるオリエンテーション ・家庭教育について 法律等の位置付け等 ・家庭教育施策の事例について 2. 報告及び連絡事項 (1) 入間地区社会教育協議会 社会教育委員部会について ・研修会について 3. その他 (1) 会議の開催について
会議資料	①公民館・交流センターだより(10月号) ②社会教育委員会議オリエンテーション資料 ③入間地区社会教育協議会社会教育部会会議報告 ④平成25年度入間地区市町社会教育委員研修会について ⑤つながりが創る豊かな家庭教育 (文部科学省家庭教育支援の推進に関する検討委員会報告) ⑥第3回社会教育委員会議会議録
会議録確認	武田秀規委員

会 議 内 容 (要点記録)

○ 議長あいさつ

○ 会議資料について

事務局から、配布物確認と主な内容の説明を行う。

○ 報告及び協議事項

1. 協議事項

(1) 社会教育委員に関わるオリエンテーション

○ 家庭教育について

「なぜ今、家庭教育支援か」をテーマに、以下の項目に沿って生涯学習課長が説明を行う。

- ・ 今日の家庭教育の現状
家庭環境の多様化や地域社会の変化
現代の子どもの育ちをめぐる課題
家庭教育が困難になっている社会
- ・ 家庭教育支援のあゆみ
- ・ 家庭教育の支援に向けて
親育ちを応援する学習機会の充実
親子と地域のつながりをつくる取り組みの推進
支援のネットワークづくり

以下、説明内容について、各委員による意見交換を行った。

委 員：地域での家庭教育など見えないものを親に話すことなど、難しいことだが努力していく必要がある。子どもが保育園・幼稚園のときにこのことをすることが大事である。

委 員：現代の生活で見ると、核家族化がすすみ、親などに話を聞くことも難しくなってきた。メディアを頼りにしている状況もある。

P T Aなどでの保護者向け研修会を企画しても、保護者の皆さんはなかなか集まらない。働きに出ている方も増えてきているので、仕事の後は子どもといたいなどあり、講座などはやり方に工夫が必要である。現実的には、子どもと一緒に参加できる形などを検討することなどである。

委 員：家庭教育は、子育てのことなどについて、家庭に踏み込む形になるので難しいことと思う。母子・父子家庭も増えてきていて、P T A活動にも参加が困難な家庭もある中で、子どもたちの育ちにも様々な状況が見える。家庭教育支援の取り組みをどう考えていけばいいのか、とても難しいと思う。

委 員：母子保健推進員をしているが、数年前から乳児を育てている親の家庭訪問を希望者だけでなく、全戸訪問をするようになった。役割などわかると

受け入れてくれる方が多いが、断られるところもある。断られた方には保健師が引き継いでくれるが、このような家庭に問題が多い場合があり、その後も追跡していくことが必要に思う。自分自身も子育て時代に孤立していることがあったことから、この業務に携わってきた。自分の経験からも、同じ状況にある方とつながりができることで救われることがあると思う。

幼稚園や小学校などのPTA活動をしてきて、学習会などを行ってきたが、来ている方ではなく、来ない方にこそ聞いて欲しいと思うことが多い。ただ、どうすれば参加してくれるかが課題である。

地域のことで言うと、水谷東地域は公民館を中心に、「おむすび少年団」「豆の木学校」などの活動があり、親だけでない地域の目があり、子どもたちもそのことをわかっている。その中で、子どもたち自身も様々な経験から自分で判断する力もつけてきている。

委員：水谷東に住んでいるが、今後も住み続けたいと思っている。それはこれまでの話のように、この地域が誰かが見ていてくれるという環境にあることが理由にある。おむすび少年団の活動では、子どもが参加してくれても保護者が認めてくれないということで、参加できなくなった子どもがいた。こういう家庭にこそやはり問題があり、参加してもらえなかったことにもどかしいとも思った。

委員：大学などでも、コミュニケーションが少なくなっている。また、一人ひとりを集団ではなく、メンターをつけて個人指導をすることが多くなっている。人と交わることや接する経験が減り、弱くなってきている。どのように交わらせるかが課題になっている。グループでディスカッションやインタビューに行かせるなどプロジェクト型の取り組みをしている。きょうの講義では、子どもの中の上下関係のなかで学んでいたことがあったが、今はなくなっている。大学のゼミもいまは学年別になっている。弱い部分である。このほうが少ない人数で目が行き届くということもある。

いま、大学でやろうとしているのが図書館の中に「ラーニングコモンズ」という環境、テーブルと椅子、ホワイトボード、コンピュータが置いてあり、班活動などができる場所を作ること、そこでは何をしてもいいということで、学生たちが集まり、利用率が高く、いろんな話をしている。

お母さん方の学習講座などでも、時間を決めて集まるのは無理で、好きなときに集まれる、何をやってもいい場所があるといいのではないかと。そこで、お母さん方のニーズなどが話され、まとめられてあがってくるような形、そういう場所・空間・時間があるといいと思う。

子どもたちにとってもプレイパークなどのような場所もあるといいし、早くにそのような場所を確保するのもいいのではないかと。

委員：きょうの話にあった昭和35年ごろは小学生で、そのころはお寺に集まったり、地蔵盆という地蔵菩薩の縁日で集まったりと、そのようなコミュニティがあり、子どもの中での上下関係などを学んだりもした。

水子貝塚公園や難波田城公園などで、ちょこっと体験という取り組みを

しているが、来る子どもたちは特定される。近所の子どもたちを連れて行くことも、途上危険で難しい。近所の遊び場でも、遊ぶ子どもたちとの関わり方は難しい。

委員：いまはなにかと責任と安全管理、各家庭での経済的問題など昔の秩父の状況などとはギャップがある。子どもの評価は学校の成績で出されてしまうので、家庭では学習が重視されてしまうことから、子ども活動は難しい。地域にはもともと住んでいる方が少なく、人間関係という問題もある。活動でも人が集まらないし、特定の方となる場合も多い。違う活動の場に行っても同じ顔に合うことも多い。

P T Aの活動をしてきたが、最近はイベント屋さんのようになってきた気がするが、いじめの問題など親が抱えている課題もあるので、地域単位でそれを吸い上げ、教育委員会とともに考えるという取り組みも行ってきた。

親たちのコミュニケーションということでは、東みずほ台地域は児童館も、公民館もなく、学校中心での取り組みになる。そのため、土・日曜はできないことが多く、地域に気軽に使えるスペースがあると良い。また、子どもに関連しては、地域子ども教室・学校応援団などいろんな取り組みがあるが、それぞれで課題を協議していることが多く、ひとつにまとまり議論し、進めていくことができないものかと思っている。

委員：P T A役員になり、親自身も子どもと一緒に学んできたと思っている。当時は、遊び場がないことから、道路で気をつけて遊んだりしてきたし、地域の子どもたちがみんな集まり、花火大会などを毎年行事として行ってきた。子どもたちにとっては縦のつながりができる場で、育成の場としてよかったと思う。

委員：子どもに問題があるというと、よく親が悪いなどといわれるが、本当にそうか、考える必要がある。その場としては学級懇談会が行われる。しかし、来て欲しい方には来てもらえないことが多く、課題となっている。時給で働いていることからこられないという話もある。学校側での調整も必要である。

親の人間関係の希薄化が、子どもの人間関係の希薄化につながっていると思う。真剣に考えるときとなっていると思う。

以上で、協議は終わりとする。

2. 報告及び連絡事項

(1) 平成25年度入間地区社会教育協議会第3回社会教育委員部会

(9月18日(水)午後2時～ 所沢市立松井公民館 出席：長ヶ原委員)

内容としては、平成25年度入間地区社会教育協議会社会教育委員研修会

(10月29日(火)12時40分～ 所沢市立松井公民館)について、協議した。

- ・ 次回の日程は、12月7日土曜日、午前9時30分からとする。改めて、通知をする。
(閉会)